



失敗を恐れない

齊藤 陽子（健康科学）

最近、他大学の体育の先生方とお話する機会がありました。最近の学生は授業で何か運動スキルを習得しなくてはならない状況になったとき、自ら試行する前に「どうすればできるようになるのか」という答えを真っ先に知りたがる・・・という話に、確かにその通りだなあ・・・と感じ入りました。

私たち教員は、学生が成長するのはどうやったらうまくいくのか？ 試行錯誤するその過程にある、ということを経験的に知っています。分からないことは chatGPT に聞けば教えてもらえる時代になりましたが、果たして AI に教えてもらえる知識というものはどこまで発展的活用が可能なものなのでしょうか。

教員になりたての頃は、学生に対し専門家として知識を与えることが大事だと考えていました。学生がその知識を活用して成功体験を積むことができれば、学生にとって自信につながるだろう・・・という考えです。実際にゼミで実施するフィールド活動でもそのような発想で行動していました。確かに教員がお膳立てすれば、学生は失敗することがなく、対外的にもきちんとまとまります。でも肝心の学生にノッてくる様子が見られない・・・。

ある年はゼミで部活動の競技サポートを行っていましたが、サポート先から学生のプレゼンに対して厳しいご意見を頂戴したことがありました。その時のゼミは文字通りお通夜のような雰囲気になりましたが、その後の反省会では逆に学生達に火がつき始め、改善のアイデアが次々と出てきました。最後はどの学生もキラキラ輝いていた（いるように見えた）ことが忘れられません。このときミーティングをまとめたゼミ長はいま富山県内の企業で働いており、最近社内プレゼンコンペに優勝して、さらには海外グループ会社の大会で国際発表する活躍ぶりです。反省会に同席していた私にとっては、学生には自ら学ぶ力があり、それを教員が安易に奪ってはいけない・・・と最大の学びがあった出来事でした。

自らを振り返ればこれまでどれだけの失敗をしてきたことでしょうか・・・最近年とともに物忘れが激しくなってきたのですが、失敗したときの記憶はそのときの感情とともにかなり鮮明に記憶できている気がします。そして確かに失敗後は猛省して行動改善に取り組んでいたことも・・・(今もですが)。

教員が学生の学びを助けられるとしたら、失敗したときに再起できないような状況（学生の心理的安全性を脅かすような叱責を与える等）にならず安心して失敗してもらえる環境を整えておくことだろうと思います。私は一児の母親でもあります。自分の子供にもたくさん失敗しながら成長していった欲しいと願っています。老いも若きも、みんな失敗を恐れることなくチャレンジしていきましょう！